

立命館大学大学院言語教育情報研究科

言語情報コミュニケーションコース修了生インタビュー



2019年9月に立命館大学大学院言語教育情報研究科を修了後、京都市内に本社がある企業に就職した李東籬さんに言語教育情報研究科に進学した経緯や在学中の研究や就職活動についてインタビューしました。

——言語教育情報研究科には言語教育学コースと言語情報コミュニケーションコースという2つのコースがあります。言語情報コミュニケーションコースを選んだ経緯を教えてください。

日本語学校に通っているころ、立命館大学で学んでいる中国の大学の先輩から言語教育情報研究科を勧められました。説明会に色々な国籍の人が参加していて、キャンパスにも外国人が多く国際的だと思いました。学校生活について話してくれた在學生に中国人がいたので、自分も受け入れられると思いました。社会言語学に興味があったので言語情報コミュニケーションコースを選びました。

——修士論文のテーマは「褒め」に関するものですが、このテーマはどのようにして選びましたか。

日本語をしっかりと学んでいてもなかなか話せない人がいます。これは相手に不快な思いをさせないためにはどうすればよいかという問題と関係するのですが、何がどのように受け取られるかを明らかにしたいと思っていました。

アルバイト先で、「〇〇さん、すごいですね」と上司を褒めたことがあるんです。中国では喜んでもらえるのですが、「当たり前じゃん」という反応が返ってきて意外でした。もともと待遇表現に関心があったのですが、尊敬語や謙譲語を文法的に理解しているだけでは相手に不快な思いをさせないという目標は達成できないので、対人関係の中で「褒め」がどのように受け取られる傾向があるか明らかにしたいと思いました。

——就職活動はいつ頃から始めましたか。また、今の勤め先に決まった経緯も教えてください。

大学院に入って1年が過ぎた2018年8月（李さんは2017年9月入学）に、立命館大学のキャリアセンターから情報が来て合同説明会に参加しました。しかし、実際に就職活動を始めたのは割と遅く、2019年1月からでした。キャリアセンターから「もう就職活動をする時期ですよ」と声をかけてもらって動き始めました。皆さんは、早めに就職活動を始めた方がよいですよ。

2019年3月に修士論文執筆に集中するためにアルバイトを辞める相談をしたら、そのアルバイトを紹介してくれた会社からこれまでの経験を活かして修了後に就職することを勧められました。2019年6月には商社からも内定をもらったのですが、仕事場の環境を知っていた会社を選びました。チームワークを大切にしているところなので、高いモチベーションで働けると思いました。

——言語教育情報研究科で学んだことで、現在の自分の研究に役立っていることはありますか。

女性が多い職場なので、修士論文で取り組んだ「褒め」の研究が役立っています。「褒め」を意識してスタッフとのコミュニケーションを図っています。それから、大学院での研究はある意味で正解がないですよ。同窓生との会話で自分とは異なるいろいろな意見に出会いました。このように多様な意見に出会うことを視野を広げる機会としてポジティブに受け取ることができるようになりました。このような姿勢を養ったことが今の仕事に活かされています。

——最後に、これから大学院はいることを検討している人たちへのアドバイスをお願いします。

日常生活にもっと目を向けてください。自分の研究テーマが見つかると思います。大学院に入学して就職を志望する場合、大学のキャリアセンターが紹介する情報だけでなく、企業が主催している説明会の情報も積極的に集めるようにすることを勧めます。

